

令和3年度（2021年度）交付

協働提案事業補助金 成果報告書

- 本報告書は各団体から提出された事業報告書や自己評価シートなどの資料をもとに作成しています。

令和3年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	瀬戸内市立図書館友の会 せとうち・もみわフレンズ
事業名	育て！郷土愛と表現力 ～瀬戸内市の文芸や絵画の歴史を知ることから～
テーマ	文化色豊かなまちづくり
協働部署	瀬戸内市民図書館
補助金額	995,600円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	図書館の活動に協力・提言することにより、図書館活動を支援するとともに、交流と実践の場を提供する。		
活動・業務	図書館活動に関する支援(イベントの共催、庭園のグリーンキーパーなど)、図書館を会場にした行事の開催。		
主な活動地域	瀬戸内市内	構成員数	71人

事業内容

郷土の偉人(瀬戸内市の3詩人である竹久夢二、正富汪洋、高祖保)及び絵画や書の顕彰を目的に、詩歌やデザインに関する講演会や作品募集などを行った。作品の鑑賞や創作活動の事例に触れ、自作の作品を創作することで、「書く、描く」ことに関心を持ち、創作意欲を喚起する事業。

事業の成果

- 現代詩の募集では、441点もの作品が集まった。147点の入選作品を掲載した詩集を作成し、400部印刷して県内の図書館に配布した。
- 「生活を豊かにするデザイン」をテーマにしたデザインの募集では、クリアファイル48点、しおり58点の応募があり、クリアファイル24点、しおり20点を入選とした。入選したクリアファイルは図書館に展示したほか、しおりも図書館で配布した。
- 作品の完成披露の会やワークショップ、講演会等を実施した。

事業を振り返って良かったこと

- 昨年より応募数が増え、多くの市民にデザインの魅力を感じてもらうことができた。「この歳になって初めて詩を書いた」という人も多数いた。
- 入選したデザイン画のしおりとクリアファイルの配布が大変好評であった。
- この事業を通じて、小学生から80代まで多くの詩やデザインの応募があり、文学や芸術に対する潜在的能力の高さを感じられた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 今回の事業実施を通してできた人とのネットワークを、今後の活動に活かしてしていきたい。

令和3年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	一般社団法人 ひばりエンタテインメント
事業名	長島ストーリープロジェクト (長島アンサンブル2021)
テーマ	長島の開かれたまち、地域社会づくり
協働部署	市民課人権啓発室
補助金額	1,000,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	クリエイティブな取り組みで差別・偏見を小さくし、新たな魅力を創出する。		
活動・業務	さざなみハウスを拠点に、長島の歴史文化を幅広い層へつないでいくこと。		
主な活動地域	瀬戸内市(長島)	構成員数	8人

事業内容

令和2年度事業の効果もあってカフェ「さざなみハウス」の知名度が上がり、来島者が大幅に増加したものの、島内の歴史館へのアクセスは多くないという現状があり、引き続き長島を考えるきっかけづくりを行う事業。ハンセン病を主とした人権問題について、今までとは違うアートの視点から幅広い多様な世代に訴えかけるため、長島とそこに暮らす人の現在を記録するダイジェストムービーを制作し、店内ギャラリーやイベント等で放映した。

事業の成果

- 故人となった清志初男さんや長島の高齢な皆さんの貴重な映像を残し、語られることのない声をくみ取ることができた。
- 作品をホームページやYouTubeに公開し、島外の人にハンセン病問題の啓発や島の美しさをわかりやすく伝えることで、より多くの人の目に留まることが期待できるようになった。
- 映像作品に参加してくれた入所者とその周りを取り巻く人たちも、さざなみハウスでの実績を伝えることができ、体感ではあるが協力者が増えた印象がある。

《YouTubeチャンネル》

喫茶さざなみハウス

<https://www.youtube.com/channel/UCqER1By-MdMBijAOcEWkxaw>

事業を振り返って良かったこと

- オンライン配信することで、市民だけでなく、興味関心がある層へわかりやすく届いた。また、市役所窓口モニターで放映してもらうことで、多くの市民の目に留まるようになった。
- 貴重な声、特にメディアに取り上げられることのない人たちの声や姿を残すことができたのはとても有意義であった。
- 制作した映像は時間が経つごとに価値の増す、貴重な映像になったと思う。

改善点や今後取り組みたいこと

- 入所者の姿を映像に残すことは、匿名性の点で大きなハードルがあるが、そこを超えることができる人達のことにはできる限り、映像に残したいと思う。
- 実際に映像にすることで、入所者の方たちにも目的を明確に伝えることができたので、継続していきたい。
- 時間と予算が許す限り、活動を継続していきたい。この10年の長島の移り変わりを記録したい。

令和3年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	学校法人せとうち 日本ITビジネスカレッジ
事業名	せとうち玉津ドローンムービープロジェクト
テーマ	参加型・滞在型・体験型観光の推進と 魅力あふれる観光情報の発信
協働部署	文化観光課
補助金額	992,700円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	IT人材を外国人も含めて育成し、労働市場へ供給する。また、廃校を活用した専門学校の立ち上げと運営、並びに地域活性化活動の中核として地方創生モデルを構築する。		
活動・業務	IT及び外国語を学ぶ専門学校の運営。他にも学校が事務局となり玉津地区農山漁村活性化協議会を立ち上げている。		
主な活動地域	瀬戸内市邑久町 玉津地区	構成員数	192人

事業内容

ドローンとIT技術を活用した親子ドローンワークショップや公式ドローンレース、ドローンを利用した撮影会などを実施し、そこで得られた映像や情報をSNS等を利用して、全世界に発信することで交流人口を増やす取組を行った。

事業の成果

- 親子ドローンワークショップ(4回開催)／参加者延べ33人
- YouTube総再生回数559回(動画7本、R4.3.2時点)
- ワークショップやレース参加者からは、おおむね好評をいただいております。今後、瀬戸内市への来訪者を増やす手段の一つになり得る実感が得られた。
《YouTubeチャンネル》
せとうち牛窓玉津ナビ
<https://www.youtube.com/channel/UCRQJaHXy2CY3C8ZPKvpTqw>

事業を振り返って良かったこと

- コロナ禍でも、規模を縮小してレースやワークショップを行うことでドローンの魅力を感じてもらう手段や感覚を得ることができた。また、感染症対策を行うことで、観客動員するイベントでも開催できる手ごたえを感じた。
- 邑久町には、ドローン撮影に適した風景や環境が豊富にあることがわかった。
- 2年間の事業を通じて、多くの学生がドローンスキルを習得でき、地域から撮影依頼が届くようになった。

改善点や今後取り組みたいこと

- 天候や感染症等による開催有無や延期、そのリスク回避や代替案等、綿密な事前打合せが必要であった。
- 学生のドローンスキル向上や地域から依頼を受けての撮影は今後も継続していきたい。コロナ禍で大規模集客ができなかったドローンレースは、企業協賛を得て継続できるか、検討を行う。
- コロナ禍の影響で十分にできなかった部分もあるが、今後も自主財源で継続できる部分は続けていきたい。

令和3年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	瀬戸内ほしのさざなみ映画館 実行委員会
事業名	瀬戸内ほしのさざなみ映画館 2021開催事業
テーマ	離れたくない・住みたくなる・まちづくり
協働部署	企画振興課
補助金額	1,000,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	「瀬戸内ほしのさざなみ映画館」を主催、企画、運営することにより、地域の魅力向上とその周知、情報発信を促進する。		
活動・業務	映画上映をきっかけに、瀬戸内市の魅力を市内外に発信する。		
主な活動地域	瀬戸内市内	構成員数	7人

事業内容

市内の歴史的または文化的価値がある場所で映画を上映することにより、埋もれた資源、施設の再認識につながり、それが郷土愛の醸成や観光客誘致及び特産品のPR、移住・交流人口の増加に寄与する事業。
地域活動の活発化や地域住民のつながりの強化になることを目指して、全5回の映画上映を行った。

事業の成果

- 延べ303人の集客があった。
- 次年度以降活用予定のPR用動画素材を撮影した。
- コロナ禍でも工夫次第で開催可能なイベントがあることと、それを実施できる場所が市内にあることを示すことができた。
- 前島フェリー発着所と錦海倉庫群については、活用可能な地域資源と活用方法について、既存のイベントとは違う方法があることを再認識できた。

事業を振り返って良かったこと

- 以前に関わりのあった事業者から企画の持ち込みがあったり、ボランティアスタッフや来場者にリピーターが散見されるなど、一定のファン層を獲得できた。
- 人口減少地域における大人やヤングアダルトが楽しめるイベントの絶対数が不足していることが改めて感じられた。
- 都市部では当たり前であることが、地方で実施することでニーズが高まったり、都市部ではできないこと（ドローン撮影等）が地方では自由にできたりと、地方の可能性や利点をPRにつなげる手ごたえを感じた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 認知度が低い場所や施設では、開催自体の負荷も大きく、集客も難しい。開催に付随して生じるメリットに価値を見出していくことで、公費や寄付なども活用、イベント開催を継続していきたい。
- 今後は、イベントを発信するだけでなく、地方の様々な可能性や利点をPRすることにもつなげていきたい。

令和3年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	山鳥毛里づくり応援団
事業名	国宝『山鳥毛』の魅力を活かした、まちづくりを目指して
テーマ	新しい旅行様式に対応した着地型観光の推進と歴史文化・地域資源の磨き上げ、魅力あふれる観光情報の発信
協働部署	文化観光課
補助金額	1,000,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	国宝「太刀 無銘一文字(山鳥毛)」が里帰りしたことを機に誇るべき郷土文化を未来に向けて継承する機運を高め、地域社会の持続的な発展につなげる。		
活動・業務	日本刀文化を守るための協働事業や、刀剣文化振興のための催事・イベントの企画運営への協力など。		
主な活動地域	瀬戸内市内	構成員数	18人

事業内容

「山鳥毛」をはじめとする継承されてきた伝統文化を地域で守り、文化を未来につなぎ、その魅力を多くの人に知ってもらうため様々な取組を行う事業。「ホームページやSNSによる情報発信」、「長船街歩きマップや写真撮影用図柄パネルの作製」、「山鳥毛PRのためののぼり旗のデザイン考案及び製作」、「博物館周辺の案内板製作」、「山鳥毛にまつわる商品開発」、「刀匠慰霊祭の開催」、「韮負神社でのおもてなし行事の開催」などを実施した。

事業の成果

- イベント事業などの協力をお願いしたことがきっかけとなり、郷土の誇りと愛着を感じた地元有志が地元の魅力向上を目指して新しい市民活動団体を発足した。
- コロナ禍による博物館の休館の影響もあり、来館者数は数値目標には届かなかった。
- 事業を重ねることで、刀剣愛好者や刀工関係者とのつながりも広がり、日本刀の魅力をより一層深めることや機運を高めることができた。
- 関連団体と協働してホームページ等で情報提供を行った。
《ホームページ》<https://sanchomo-sup.cizk.net/>
《Twitter》https://twitter.com/sanchomo_sup

事業を振り返って良かったこと

- 今まで継承されてきた文化をこの地で守り、未来につなぐ責務を果たそうという思いから地元で魅力向上のための応援団が発足したこと。
- Facebookで応援団を紹介し、刀剣愛好者などの声を聴くことにより、新しいつながりが生まれたこと。

改善点や今後取り組みたいこと

- まだまだ、瀬戸内市民や市内の子どもたちに日本刀の魅力が浸透しているように思えないことから、より一層、刀剣王国備前長船を誇りに思うような機運を高めていきたい。
- コロナ禍の影響で、刀剣博物館が休館となるなど、事業が思うように実施できなかった。
- 地元で発足した市民活動団体と連携を保ちながら事業を進めていき、継続した地元行事として取り組んでいきたい。

令和3年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	一般社団法人 せとうち保護犬猫の里
事業名	せとうち犬猫支部
テーマ	環境・動物にやさしく、住みやすいまちづくり
協働部署	生活環境課
補助金額	251,500円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	殺処分や虐待など、理不尽な扱いを受ける犬や猫をなくし、動物福祉の向上を図る。		
活動・業務	犬猫の保護及び譲渡、譲渡会の開催、せとうちドッグパークの運営など。		
主な活動地域	岡山県内	構成員数	11人

事業内容

地域の野良猫問題を解決するため、モデル地区を設定して地域猫活動に取り組むとともに、市内において当該活動の周知啓発を行う事業。

市内各地区で猫の保護活動行いながら、町内会長へ地域猫活動の説明をしたり、先進地から講師を招いて講演会を開催したりした。

事業の成果

- 牛窓町紺浦地区で地域猫活動を開始することができた。
- 地域猫活動が受け入れられない地区においても、TNR活動を実施した。
- TNR活動が難しい子猫は保護し、初期医療の後、里親への譲渡活動を実施した。
- 先進地から講師を招き、地域猫活動に関する勉強会「地域猫プロジェクト」を開催したところ、14の方が参加してくれた。紺浦地区で地域猫活動がスタートできたのも、この勉強会がきっかけである。

事業を振り返って良かったこと

- 地域猫活動を開始した地区から「費用面で頭数を行えていなかったのが、気にせず新しい猫が来たらすぐに手術できるようになって助かっている。」との感想をいただいた。
(地域猫活動へ登録することで手術代が0円となるため)

改善点や今後取り組みたいこと

- 地区への視察や訪問の際に地域住民の理解や餌やり同士の連携など多くの問題がみられた。
- グループ活動(地域猫活動)を苦手とする方が多く、個人で行えるTNR活動を手伝うケースが多発した。
- 各地区への訪問回数を増やし、より詳しい説明を行っていきたい。
- TNR活動に興味がある人にはそのやり方を伝えながら、TNR活動が進んでいる地区では、地域猫活動への登録を勧めていきたい。